



# 南条つ子

南条小学校だより

南条つ子は 進んで学ぶ子

R2.7.3

No.19

思いやりのある子

かいっぱいやりぬく子

目標 ともに学び 豊かな心で未来を切り拓く子の育成



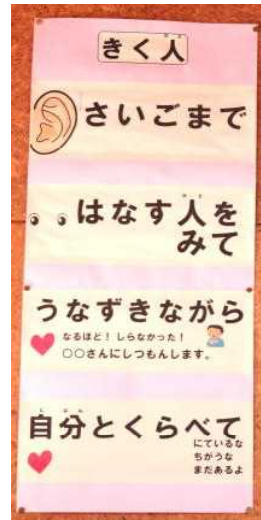
## ○ 「聞く力を育てる」 ※親向けの内容です。

本校では、「聞(聴)く力」や「話す力」を育てるために、低・中・高学年別に意識するポイントを挙げ、各クラスの前面黒板の上に掲示しています。(右の写真は、低学年用です。)

今回は、「聞く力」について、加藤紀子さんが書いた『子育てベスト100ー「最先端の新常識×子どもに一番大事なこと」が1冊で全部丸わかり』(ダイヤモンド社)を引用して、紹介します。

### 「聞く力」はさまざまな力につながる

SNSなどを通じたバーチャルな(仮想の)コミュニケーション(伝達)が一般化し、目の前にいる相手の話をじっくりと聞く機会が減っています。しかし、「聞く」ことは、人の話に集中し、よく理解するための重要なスキル(技能)です。子どもは「聞く力」を身に付けることで、以下のよう



- ・**学力**: 「聞く→わかる→楽しい→もっと知りたい→聞く」という学びの好循環が生まれます。
- ・**表現力や語彙力**: 音声を敏感に聞き取る力は子どもの頃の方が優れており、成長とともに失われていきます。子どもの頃から聞く力があれば、耳から新しい表現や言葉をキャッチして、どんどん習得していくことができます。
- ・**集中力**: 落ち着いて相手の話を聞くことで、集中力が養われます。
- ・**我慢強さ**: 相手の話の途中で口を挟んだり、無視したりせずにしっかりと耳を傾けることで、我慢強さも身に付きます。
- ・**共感力**: 子どもは自分の気持ちを分かってもらいたい思いが強く、相手を理解することはまだ得意ではありませんが、話を聞く習慣をつけることで、相手の気持ちを理解できるようになっていきます。

そこで、子どもの「聞く力」を伸ばす方法を紹介します。

### 【その1】親が子どもの顔を見て話を聞く

子どもが話しかけてきた時は、背中を向けたまま聞くようなことはせず、向き直って、子どもの顔(目)を見ながら話を聞きます。22か国語に翻訳された『子どもが育つ魔法の言葉』(PHP文庫)の著者、ドロシー・ロー・ノルト博士は、「子どもは親を手本にして育つ。毎日の生活での親の姿こそが、子どもに最も影響力をもつ」と言っています。子どもは大人が自分の話を聞いてくれる姿を見て、人の話を聞くとはどういうことかを学びます。

※くれぐれもスマホを操作しながら聞くということがないようにしてください。

### 【その2】「読み聞かせ」をする

楽しい本の時間は、子どもが「聞く力」を伸ばすチャンスです。絵が多く文が短い絵本から始め、成長していくにつれて、絵が少なく文字の多い、長めの話を選ぶようにします。

### 【その3】「伝言ゲーム」をする

「今から言う言葉をパパ(ママ)に伝えてね」と伝言をゲーム感覚でお願いすると、子どもは夢中になります。正しく伝えられたら「すごいね!」と忘れずに声をかけます。

### 【その4】「心の道具」を使う

児童の学習心理学が専門の心理学者、エレナ・ボドロヴァとデボラ・レオンは、家庭で「聞く力」が育たなかった子どもたち向けに「心の道具(ツールズ・オブ・ザ・マインド)」というプログラムを開発しました。このプログラムでは、子どもは「視覚」を通じて行動をうながされます。

例えば、絵本を読む時は、「読む番」の子どもは目の前に「口の絵」を置き、自分が読み手であることを周りに伝えます。その他の子どもたちは「耳の絵」を持って、自分は話し手ではなく聞き手であることを自覚するといった方法です。このツールは、学校や保育園など集団の場で「聞く力」を育てる際、子どもたちになじみやすく、聞く力だけでなく、自制心や学力の向上にもつながっています。家でも親子で読み聞かせをしたり、対話をしたりするときに応用することができます。

「話を最後までしっかりと」、「相手が何を伝えようとしているのかを理解しながら」、「自分と比べて同じところや違うところはどこか考えながら」など、聞(聴)き方のポイントはいろいろありますが、まずは、相手の話をしっかりと聞(聴)こうとする態度が大事だと思います。「どうせ話を聞(聴)いてくれない」、「何となく話をしにくい」から、「話をしたくない」というようには思われたくないですね。

### 【お気を付けください】

#### ○ゲームについて

ここではゲーム名を出しませんが、ある人気のゲームは、15歳以上(スマホ版は12歳以上)対象となっており、人に向かって銃を撃ち合う暴力性を含むゲームであり、ゲーム内に課金要素があり、世界中の人とボイスチャットができるため暴言などの嫌がらせが発生する可能性があるなど、12歳未満の子どもに不適切な可能性があるそうです。そうしたゲームの影響かどうかは分かりませんが、(現実の世界とゲームの世界を混同しているような)他人に対して暴力的な行動をしたり、ひどい言葉遣いをしたりする子どもが増えているそうです。

最近では、eスポーツ(エレクトロニック・スポーツ)というものもあり、ゲームそのものを悪いものと決めつけるわけにはいきませんが、お子様がどんなゲームをしているかについて関心を払うとともに、年齢制限が設けられている意味をご理解いただき、ご家庭でもご指導ください。

#### ○外出自粛や休校で体力低下(?)

6月に学校が再開されてから、県内のある病院で、骨折や外傷がないままひびが入っていると診断される子どもや、肉離れや靭帯損傷などを起こす子どもが増えているそうです。学校では、新型コロナウイルス感染症や熱中症対策もあり、業間マラソンは行っていませんし、体育の授業でも、あまり激しい運動は取り入れていません。運動能力の低下が心配され、悩ましいところ。痛みがいつまでも続くような場合は、軽く見ない方が良さそうです。

### 【お知らせ】

合宿通学(4年生)と町民文化祭(ステージ発表・展示発表)は、中止となりました。